

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年11月8日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0892500075		
法人名	株式会社 ライフケアサービス		
事業所名	グループホーム 喜楽	ユニット名	
所在地	〒311-4615 茨城県常陸大宮市下伊勢畑948-8		
自己評価作成日	平成24年2月13日	評価結果 市町村受理日	平成24年11月2日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=tr ue&JigyosyoCd=0892500075-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成24年4月18日	評価確定日	平成24年9月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none">・ 少人数（1ユニット）の施設として、入居者様一人一人に、優しく語りかけ、笑顔でござせる様に、職員一同、そっと手を添える優しい介護を心掛けております。職員はいつも笑顔、いっぱいです。・ 静かな環境で、ゆっくりゆっくりと楽しい時間を過ごしていただいております。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>山あいの恵まれた自然環境の中に位置し、家庭的な雰囲気にあふれた通所介護事業所併設の事業所である。</p> <p>利用者と職員は地域の清掃活動や七夕祭り、花火大会に参加して地域住民と交流するとともに、散歩の際に地域住民に挨拶する中で花や野菜のお裾分けがあったり、地域のボランティアが自家栽培したそばやうどん打ち、手品、読み聞かせに来訪してくれるなど、地域密着を実践している。</p> <p>管理者は地域住民のサポートを得ながらサービスの質の向上に前向きに取り組んでおり、職員はそのような管理者との信頼関係のもとで、利用者を家族のように考えチームワーク良く利用者を支援している。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・ 壁に理念が張り出されており、いつでも読めるようになっている。	職員で話し合っ「地域との交流を大切に」、「笑顔と信頼感を大事に」などのキーワードが入った事業所独自の理念を作成している。 職員は理念を朝礼時に唱和するとともに、事業所内に掲示して共有し、「利用者の話を丁寧に聴く」、「常に利用者笑顔で接する」など理念の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・ 地域の祭りや、地域の花見、或いは、清掃活動に参加している。 ・ 入居者様と共に地域のスーパーを利用している。 ・ 地域の保育園児が、ボランティアに来てくれる。	利用者と職員は地域の清掃活動や七夕祭り、花火大会に参加して地域住民と交流するとともに、散歩の際に地域住民に挨拶する中で花や野菜のお裾分けを頂いている。 地域の保育園児がプレゼントを持って来訪しているほか、地域ボランティアが自家栽培したそばやうどん打ち、手品、読み聞かせに来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・ 地域の高齢者等の暮らしに役立つ取り組みはしていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・ 運営会議を開催し、入居者様の家族、近隣の方から、意見や要望を聞き、活動や行事を行う上での参考にしていく為、職員全体に回覧し、認識を同じにする。	市担当者が出席する運営推進会議の開催が年1回のみとなっており、2ヶ月に1回開催するまでには至っていない。 会議において、外部評価で明らかになった課題を報告するまでには至っていない。 管理者は会議において地域関係者からリハビリ体操のボランティアや林檎狩りの場所提供などの情報を得て、事業所の行事に取り入れている。	前回の目標達成計画にも掲げられていた2ヶ月に1回の運営推進会議開催を再度目標達成計画として掲げ、外部評価結果などの報告も含め確実に開催することが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 介護認定の更新手続きや、詳細報告等で情報を提供している。 介護について、分からない事があった時は連絡をして聞いている。 	<p>管理者は事業所の空き室状況や行事実施結果などを市担当者に伝えるとともに、介護保険法の改正点や介護報酬の加算などについて市担当者に直接面会して相談することでコミュニケーションを図るように努めている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 身体拘束とは、どういうものなのかを理解し、一人一人の入居者様の行動を十分理解したうえで、ケアを行っている。 	<p>管理者は身体拘束廃止マニュアルを作成するとともに、年1回身体拘束廃止に向けた職員研修を実施しているほか、「禁止の対象となる身体拘束例」を事業所内に掲示して職員に身体拘束をしないケアを徹底している。</p> <p>職員は家族等の理解を得ながら利用者にかみ細かく接することにより、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 職員同士で、虐待行為が行われていないか、日々確認し合っている。 		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 職員全体の理解は低く、対応が必要な時に、支援できる体制が、万全とは言えない。 		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・ 契約する前に、2, 3日体験入所して頂き納得した上で、契約をして頂く。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ 面会時に、お話を聞いたり、家族会開催時に、意見要望を聞いている。	職員は家族等が面会に訪れた際の世間話や家族会での食事を通して懇親を深める中で、意見や要望を引き出すように努めている。 管理者は家族等からの「新聞を取ってほしい」や「利用者が誰でも楽しめるレクリエーション用具を購入してほしい」などの要望を受け、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・ 日頃からコミュニケーションをとる様に心掛け、職員の意見や要望を聞くようにしている。 ・ 月1回のミーティング時にも、意見を出す機会を設けている。	管理者は年に数回の職員との懇親会でコミュニケーションを図るとともに、月1回のミーティングにおいて職員の意見や提案を聞くように努めている。 管理者は「いつもと異なるシフトについての場合にも仕事の流れを理解できるように『業務流れ表』を作成してほしい」などの職員の意見を受け、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・ 働きやすい環境作りの整備に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・ 勉強会や研修会になるべく多くの職員が参加、受講できるような勤務調整をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・ 研修会に参加し、質の向上に励んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・ 面談時に、本人の要望や困っている事を聞き、本人の気持ちを受け止めるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ これまでの経緯、思いや不安を聞き、理解するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ 改善にむけて、必要なサービスに取りくむようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・ 人生の先輩であることを、皆で共有して日常の中で教えて頂く場面を多くする工夫や、声かけに配慮している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ 現状の様子、こちらの思いを伝え、本人を支える為に、家族と同じような思いで支援している事を伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ 友人や民生委員さんの面会や、以前から行っていた病院への受診、2ヶ月に1回の理容室の利用。	職員は面会に来訪した利用者の親戚や知人に再来訪を働きかけているほか、利用者が知人や友人に年賀状を出せるように支援している。 墓参りや外泊など利用者の希望を家族等に電話で伝え、馴染みの場所に出かけられるように支援をしている。 アセスメントや日常の支援の中で、馴染みの人や場所を積極的に把握するまでには至っていない。	利用者が馴染みの人や場所との接点を保ちながらその人らしい生活ができることを支援するために、利用者がこれまでに培ってきた人間関係や社会との関係の把握に積極的に取り組むことが望まれる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・ 自由に過ごし、お茶を飲みながら話ししたりお互いの居室にて折り紙をされたりしている。 ・ 何かある時以外は、職員が見守りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・ 継続的な関わりを必要とする利用者や家族は現在居ない為、特に何もしていない。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・ 日常生活の中での動作やコミュニケーションの中から、本人の思いや願っている事を把握し、今、どうしたいかを考え対応している。	サービス開始時のアセスメントにおいて、「役割を持ちたい」や「折り紙や貼り絵をしたい」などの希望や意向を把握している。 把握が困難な場合には表情やしぐさから汲み取るように努めるとともに、家族等から生活歴を聞いて検討している。 日々の支援の中で把握した思いや意向を介護記録や申し送りノートに記録しているが、他の記録の中に埋もれており、全職員で共有するまでには至っていない。	利用者や家族等の思いや意向の把握がケアの出発点であることを再認識し、日々の暮らしの中で把握した思いや意向をサインペンで強調するなど、全職員で共有して介護計画に反映していくことが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ 入所時に、本人や家族と面談し、今までの生活を聞き、送られてきた暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・ 生活のリズムを理解して、生活、心境面で出来ることに注目し、その人全体の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ モニタリング、カンファレンスを行い介護計画を作成している。家族との話し合いも来訪時に行い、要望を取り入れるようにしている。	利用者担当の職員から提出されたより良く暮らすための課題に基づき、計画作成担当者が介護計画案を作成し、介護支援専門員や担当職員が参加するミーティングにおいて、家族等や医療関係者の意見を踏まえて具体的な目標を掲げた介護計画を作成している。 6ヶ月毎にモニタリングや評価をしているが、その結果を踏まえた介護計画や現状に即した介護計画を作成するまでには至っていない。	計画→実行→評価→改善というマネジメントの一環としてのモニタリングや評価であることを再認識し、現状に即した介護計画の確実な見直しが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・ 個別に日々の生活の様子や、本人の言葉等を記録し、全ての職員が把握できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・ 本人や家族の状況に応じて、通院などの支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・ 安心して地域で暮らしていける様に、民生委員さん、区長さん、近隣住民の方と連携をとり支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・ 基本的には家族対応の受診となっているが、不可能な時は職員が代行する様になっている。	入居時のアセスメントにおいて利用者や家族等から希望するかかりつけ医を聞いており、家族等と協力して付き添いをするなどで受診支援をしている。 家族等が付き添う場合にはバイタルサインなどをコピーして家族等に手渡すとともに、家族等から聞き取った受診結果を申し送りノートに記録し、全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・ 看護職の確保は出来ていないが、状態に変化があった場合は、かかりつけ医に連絡し、適切な対応を仰げる様にしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時は、本人に関する情報を、医療機関に提供している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度者や終末期の方を対象とした受け入れは、行っていない。	「重度化対応・終末期ケア対応指針」を作成し利用者や家族等の同意を得ているが、重度化や看取り介護の体制作りやマニュアルを整備するまでには至っていない。	重度化や終末期に向けた事業所としての在り方を関係者で早期に話し合うことが望まれる。 話し合いの結果を踏まえて、重度化や終末期において事業所として関係者の方針がずれたまま、重度化や看取りの時期を迎えることがないよう、事業所としてできることとできないことを明確にすることを目標達成計画に掲げ、内容を利用者や家族等に説明して同意を得ることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急時のマニュアルを設置し、職員に把握してもらっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・火災報知器、スプリンクラーの設置を行い、避難訓練をおこなっている。	夜間を想定した避難訓練や消防署立会いの避難訓練を年2回実施し結果を記録しているが、避難完了時間など訓練で得られた課題を記載するまでには至っていない。 避難訓練の際に地域住民に消火器訓練への参加を呼びかけているが、避難訓練への参加など災害時における地域との協力体制を築くまでには至っていない。 災害に備えて、食糧や飲料水、ヘッドランプ、電池などを備蓄している。	運営推進会議などの場を通して、避難訓練へ地域住民や地元消防団の参加を呼びかける中で、災害時における地域との協力体制について話し合うことが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> 言葉かけに気をつけている。 	<p>職員は利用者が人生の先輩であるという意識を常に持ち、利用者を「さん付け」で呼ぶように努めている。</p> <p>排泄誘導の際には耳元で話しかけるようにするとともに、不適切な言葉かけがあった際にはミーティングなどで話し合っ改善に努めている。</p> <p>個人情報ファイルを事務室の棚に保管しており、共用空間からファイルの背表紙が見えるなど適切に管理するまでには至っていない。</p>	個人情報ファイルは安全な管理という観点で施錠ができるロッカーなどに保管することが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> 本人に決定をお願いし、意思表示ができない方でも、表情や動きなどから希望を把握するようにしている。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> その人のペースに合わせて、対応している。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 本人の好みの洋服を選んでもらっている。 カバン、上着等も。 		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・ 買い物、調理、盛り付け、方付けなど、負担にならないように配慮し、行っている。	職員は第1と第3日曜日を「刺身の日」にしているほか季節の食材を使うなど、利用者の希望を取り入れた献立づくりをしている。 誕生日や季節行事の際には、寿司など利用者が希望する特別食を提供している。 利用者は職員の支援を得ながら食事の準備や後片付けをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・ 食事の摂取量、一日の水分量を毎日チェック表に記録し、職員会で情報を共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・ 食後の歯磨き、入れ歯の手入れの声かけをおこなっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・ 日常の様子を観察して、状態に応じて対応、声かけをしている。	職員は排泄チェックシートにより、利用者一人ひとりの排泄パターンやサインを把握しながらトイレでの排泄を支援している。 家族等と話し合いながらポータブルトイレの使用などにより、おむつを使用しない支援に努めている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・ 排泄記録表に記録し、便秘を改善する為に、水分補給や、軽い運動を促し、自発排便できるようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	・ 希望、状況をその都度確認して、行っている。（週2回実施）	利用者の体調に考慮し週2回の入浴となっているが、シャワー浴なども含め利用者一人ひとりの希望にそった入浴も可能となっている。 利用者は入浴の際に職員が自分の背中をこすってくれることを楽しみにしている。 菖蒲湯や柚子湯などを取り入れて入浴が楽しみなものとなるよう工夫するとともに、入浴を拒む利用者には無理強いせずに対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・ 生活のリズムを大切に、個々の体調に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・ 薬用のファイルを、作って保管している。 ・ 服薬時はきちんと服用しているか、確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・ 得意な事を把握、お願いをして、出来る事をして頂ける様支援している。 ・ 食事作りなども経験を発揮する場としている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・ 散歩、ドライブ、家族の方との外出、がある。	職員は天気の良い日には利用者の希望するコースを選び、事業所周辺の散歩を支援している。 利用者はほぼ毎月、車いす使用の利用者や都合のつく家族等と一緒に、周辺の観光や花見、紅葉見物、果物狩りなどに外出している。 利用者は職員の支援を得ながら、近くの道の駅に食材購入に外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ 施設側で、個々の金銭預かり金を保管している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ 電話は、プライバシーを配慮して自室に持っていき、使用していただいている。 ・ 年賀状、手紙は自由に書いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ 四季が感じられるよう、一緒に飾りつけを行ったり、月別のカレンダーを作成し貼り付けている。	明るくこじんまりとした共用空間には、利用者が「みんなに見てもらいたい」と言って飾った鉢植えの花や観葉植物が置いてあり、周囲の自然環境を活かしながら、利用者がゆったりと落ち着いて過ごせるよう家庭的な雰囲気づくりを心がけている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ 一人で過ごしたり、お話ししたり、自由に過ごせる様なスペースを提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ 入居する時に、今まで使用していた、身の回りの物を持ってきてくれるように家族にお願い、協力を頂いている。	利用者は使い慣れた時計や衣類ラック、ぬいぐるみなどのほか、テレビや雑誌、家族写真などを居室に持ち込んで居心地よく過ごしている。 職員は居室に家庭で使い慣れた物品や利用者の好みの物品を持ち込んでもらえるように家族等に働きかけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・ 居室の前に、名前の表札や、ぬいぐるみ花などをつけたり、状況に合わせて、安心できる様な環境作りをしている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目標達成計画

事業所名 グループホーム喜楽

作成日 平成24年11月2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の開催と内容	2か月に1回の会議を開催する	運営推進会議開催を2か月に1回のペースで開催できる様、計画をたてる。外部評価の結果などの報告もその時に行う。	25年度
2	20	馴染みの人や場所との関係継続の支援	これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れない様、支援する。	敬老会や誕生会など行事の時に出来るだけ、関わりのある方へ出席してもらい、楽しい時間を過ごしていただく。	25年度
3	23	思いや意向の把握	思い、希望、意向の把握をする。	利用者や家族の思いや意向をサインペンで強調したり、月1回の会議時に全職員で共有し計画書に組み入れる。	25年度
4	26	チームで作る介護計画とモニタリングの実施	モニタリングを行い、その結果を踏まえた介護計画を作成する。	計画→実行→評価→改善とゆうマネジメントを一環として、きちんと評価を行い介護計画を作成する。	25年度
5	33	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化や看取り介護の体制作り、マニュアル作成を行う。	重度化、看取り介護について、事業所で出来ることについての話し合い、確認→計画→説明を行う。 マニュアル作成を行う。	25年度
6	35	避難訓練の実施報告と記載、地域住民の協力体制の確保	避難訓練実施時の報告、記録をきちんと取る。 地域住民との関わりをもつ。	完了時間までの記録の取り方をきちんと行う。 地域住民の方々との話し合いを持ち、協力体制を作る。	25年度
7	36	個人情報の確保	個人情報の管理、取り扱いを徹底する。	個人情報ファイルは施錠が出来るロッカーなどに保管する。	1か月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。